

tamtam

2022.07

VOL.17

P1 [特集]地域づくりに必要な“社会教育”を見つめ直そう

P2 [特集]学び合いの場をつくる担い手 地域づくりと地域学校協働活動

P3 隣の自治協さん「久下自治振興会」 丹波市民、学びの窓「自治公民館活動の可能性」

P4 繋ぐ!市民活動「サマリー丹」 活動事業者紹介「F-union」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

“地域づくりに必要な 社会教育”を見つめ直そう



上：全国フォーラムで南小学校の取り組みを発表

下：地域住民、教職員、保護者が語り合う「南小学校コミュニティ・スクール・オフ会」

人口減少社会における地域づくりでは、住民が主体的に地域の課題に向き合い、将来像を共有し合うことが大切です。そのためには、解決に向けて多様な人々が学び合いながら緩やかにつながり、学んだ成果を地域の活動につなげていくことができる社会教育*の役割が重要となります。

2018年には文部科学省から「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」が出され、社会教育は「個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割」があり、社会教育が「人づくり」「つながりづくり」において強みを發揮し、「地域づくり」を推進すると示されました。

「人づくり・つながりづくり・地域づくり」は、多様な主体の連携・協働によって行われることが重要です。今回は具体例として、地域学校協働活動を取り上げます。家庭教育・学校教育・社会教育の一層の連携・協働を進め、楽しさをベースとした学びや住民の関心の高い学びによって、連携・協働活動のきっかけとなるような工夫がされています。次ページから地域の人をつなぎ、学び合いの場をつくる担い手の必要性や、学びを通じた地域づくりとしての地域学校協働活動について考えていきます。

* 社会教育とは学校・家庭以外の広く社会で行われる教育のこと



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

SPECIAL FEATURE

Topics 01

地域の学び合いの場をつくる担い手の必要性

地域を面白くしたい、新たな人と出会いたい、仲間を見つけながら活動したい、という前向きな気持ちになることができるきっかけが、地域の中にたくさん存在することで、子どもも大人も、そして地域も成長していくことができます。起点となるのが地域での学び合いであり、これをつくる担い手の存在が重要になります。社会教育の分野では、「社会教育主事」、「社会教育士」、「地域学校協働活動推進員」等の人材があげられます。丹波市では今年4月に教育委員会事務局に社会教育主事を1名配置し、「地域学校協働活動推進員」は小学校22校のうち6校区に置かれ、地域と学校の課題に合わせた活動をしています。

丹波市立南小学校の地域学校協働活動推進員の取り組みとして、学校に地域住民が立ち寄り、集うことができるスペースを整備したり、地域住民の対話による学び合いの場である「コミュニティスクール・オフ会」を開催したりしています。また、2021年から丹波市全域を対象に始まった「地域から考える学びの未来会議」（通称：ミラカイ）ではコアメンバーが中心となり、地域協働、未来の担い手づくり、新たな学び場等をテーマに話し合

う場をつくっています。様々な方とのつながりづくり、仲間づくり、学び合いづくりを意識してゆるやかに楽しみながら活動しています。



話し合うことで学び合いが生まれる「地域から考える学びの未来会議」

SPECIAL FEATURE

Topics 02

「学校を核とした地域づくり」としての地域学校協働活動

丹波市では2017年から「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を導入し、各小学校に学校運営協議会を設置して「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。地域づくりの視点で考えた場合、今後は、地域内の様々な機関や団体等が連携しながら、学校、家庭、地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開していく「子どもも大人も学び合い育ち合う体制」を作っていく必要があります。そのためには、地域と学校が効果的に連携する地域学校協働活動が重要となります。

この活動は、地域の中にいる多様な人々や保護者、PTA、NPO法人、民間企業、団体・機関等の参画を得て、「学校を核とした地域づくり」を目指す活動です。地域には様々な特技やスキルを持った多様な人材があり、子どもも大人も学び合えるテーマがたくさんあります。それらをつなぎ、発見して、地域に学び合う育ち合う場をつくる役割を担うのが「地域学校協働活動推進員」です。

文部科学省のアンケート調査によると、活動の効果として、「地域住民の生きがいづくり、自己実現につながった」という回答が約74%、「地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった」という回答が約70%となりました。この活動により、子どもたちの社会参画を促し、地域への愛着、コミュニケーション力や学力の向上、教職員の地域への理解の促進、活動を通じた地域の課題解決等につながります。

地域学校協働活動により、子どもも大人も自分が誰かの役に立っている、必要とされていると実感できることで、信頼関係が強まり、誰もが生きがいや成長を感じることができ、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」がより一層進んでいくことになるでしょう。

* こちらの特集の用語解説をweb版tamtamに掲載しています。
そちらもご覧ください。
(<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>)

さん 自 隣り の 自治 協

TONARI no
JICHIKYO san

久下自治振興会

自然、歴史、文化、人の交流地点

久下自治振興会は、山南地域の久下小学校校区に位置し、人口約3,000人、約1,200世帯、24自治会で構成されています。古来より都と山陰、山陽両道の交通の要所として栄えました。現在も、JRの福知山線と加古川線の乗り継ぎ駅である谷川駅と、久下村駅があり、地域の中心部では、歩いて買い物や金融機関、病院などに行くことができ、利便性の良い地域です。

拠点施設の久下自治会館にも多くの人が集まり、貸し室は予定の空く日がないくらい地域住民・団体による利用があります。毎週月曜日には、地元の皆さんを持ち寄った野菜市やコミュニティ喫茶店「おくどさん」を開催。「ホタル飛び交う健康の里」を合言葉に、高齢者も若者も女性も、全員参画の地域づくりに取り組んでいます。



地域の魅力や未来像について話し合う

住民で進める地域づくりと情報発信

生活環境の良い地域ですが、他地域同様に人口減少、高齢化が進み、2022年4月には山南地域が過疎地に指定されました。それでも、移住者が増えている場所もあり、6月開催の「久下の“これから”をみんなで話す会」では、多くの住民が集い、久下の魅力がたくさん話題に上がり、今後の地域づくりについて大いに盛り上りました。

また、情報発信として、住民向けの広報「くげの里ひろば」を、広報部を中心に年3回発行し、久下で活動している人やグループを取り上げ、住民同士のつながりを深めています。また、ホームページでは、外部の専門家の支援も受けつつ地域外に向けて発信しています。たくさんの地域の宝を紹介している「久下の宝ものAtoZ」や、運営メンバーが頻繁に更新する日常を切り取った「投稿」が魅力的な作りとなっています。

市民が主体の持続可能なまちづくりのため、人材の発掘や育成に重点を置き、「みんなでつくる久下の里」を目指しています。



ホームページで、地域のあちこちを紹介
<http://kuge.tamba.city/>

丹波市民、学びの窓

自治公民館活動の可能性

新型コロナウイルス感染防止のために自粛されてきた市の行事が見直され、再開の知らせが聞こえてくるようになりました。その中には自治会が主催するものが多くあります。自治会行事には、安心安全なまちづくりのための防災訓練、環境美化のためのクリーン作戦、健康づくりのためのウォーキング教室などをはじめ、文化・レクリエーション・世代交流など幅広い活動があり、このような活動を自治公民館活動と呼ぶ自治会もあります。それはなぜでしょうか。

約75年前、太平洋戦争後の荒廃し混乱した社会状況の中で、日本全国の各地域を復興していくためには

教育の力が必要とされました。その後、各市町村に設置された公民館は場所を提供するだけでなく、住民が主体となった総合的な社会教育施設として設置されています。公民館の理念を自治会単位に取り入れたのが丹波市の自治公民館活動です。住民にとって自治会の公民館は集会所であり、交流の場であり、さらに課題解決の学びの場となっていました。

社会からの孤立感や疎外感を抱く人や、地域の中でつながりを持たない人が増え、コミュニティの希薄化が広がっていると言われている今、自治公民館活動は個人や家庭ではなく、なかなか解決しない課題を住民同士で考える場を作り、様々なモノがつなが

ることで自分たちの枠を超える楽しさにも発展していくものになるでしょう。自治会の公民館長、公民館主事を中心に、普段の生活に密着した住民の課題を、近所同士で考え、行動し、解決していくことで、住みよい地域づくりにつながります。そのためには、例年通りの行事もいいですが、困りごとの課題解決につながる行事にも取り組んでいくことが必要でしょう。



成松中央通り自治会の防火防災訓練



繋ぐ!市民活動

パソコン要約筆記サークル サマリー丹(まごころ)

パソコン要約筆記は講演会等でその内容をわかりやすくまとめた文字を会場のスクリーンに映すことで、耳の不自由な方や声が聞き取りづらい方に情報を伝える活動です。丹波市では 2017 年よりパソコン要約筆記者の育成が始まりました。

パソコン要約筆記サークルサマリー丹(まごころ)は、障がい福祉課主催の「パソコン要約筆記者養成講座」の受講生したメンバーで 2018 年に発足しました。現在 7 人のメンバーが活動しています。パソコン要約筆記に必要な「全国統一要約筆記者認定試験」に合格したメンバーは、市内外の講演会で活躍しています。サークルでは各メンバーが現場で経験し

たことや学びを共有し、今後の講演会での依頼や認定試験に備え学習しています。講演会本番では登壇者の話すスピードに合わせ正しく読みやすい要約筆記が求められるため、事前に関連する用語を調べるなど、事前準備も大切な作業になります。

講演会では聴覚に障がいを持たない方からも「文字で見ることで内容が理解できた」との声もあり、代表の十倉磨呂美さんは「講演会などの場で手話や要約筆記がつくのは当たり前のことになってほしい」と話します。現在、市内ではパソコン要約筆記者が少ない反面、講演会での依頼は増えており、全てに対応できるよう一緒に活動できる仲間を募っています。



月2回の定例会での要約筆記の練習



4人で連携し講演会の内容を要約筆記する



活動事業者紹介

一般社団法人 F-union

一般社団法人 F-union (エフユニオン) は、2022 年 5 月に就労継続支援 A 型事業所 * をスタートさせました。丹波悠遊の森内のレストラン「BBQ & Burger BP (ベルピーマン)」の企業向け宅配弁当事業と施設外就労先として連携しています。

日替わり弁当の盛付や仕込みが主な作業で、同法人の支援員（ガイドクルー）が、利用者（クルー）それぞれの個性や特性に合わせたサポートを考え、一緒に作業しています。ゆくゆくはクルーが自立して作業に取り組めるように、ガイドクルーのサポート体制や環境を整えています。

同法人の代表理事花田匡平さんは、「障がいや難病を抱える方が、社会の中で働いていく次のステップとなる機会・場所を地元で提供できることは、事業者として

重要な役割だと感じている」と話します。実際、開設時には、多くの方々から丹波市唯一の A 型事業所を「待っていた」「期待している」との声があり、お弁当を購入し応援してくれたり、クルーのための仕事（業務請負）を提案してくれたりする企業もあり、社会・地域から今、必要な事業として求められています。

7月からは高齢者向け宅配弁当サービスを開始し、今後の事業展開も見据え、業務の中での気づきやノウハウの蓄積し、よりよい支援の仕組み構築に取り組んでいます。



クルーとガイドクルーが一緒に作業する
宅配弁当の盛り付け



丹波悠遊の森内にある施設外就労先ベルピーマン



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10:00 – 18:00(会議室は 21:30まで) / 毎週月曜日・年末年始休館
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさまからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。